

佐藤史人の音楽科（第2学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

音楽科では、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成することを目指している。そのために、音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと等について、更なる充実が求められている（平成28年12月 中央教育審議会答申）。

そこで、私は、第2学年の音楽づくりの学習において、**要素の働きを生かした表現を工夫し、イメージに合った音楽をつくる子ども**を目指す。要素とは、音楽を形づくっている要素^{*1}のことである（以下：要素）。本研究における「要素の働きを生かした表現を工夫する」とは、実際に音を出しながら、「音楽の仕組み」^{*1}を用いて、音やフレーズを関連付けて音楽にしていくことである。「イメージに合った音楽をつくる」とは、様子の変化、体験、思い出などをイメージとし、そのイメージを伝える音楽をつくり、表現する姿である。

音楽づくりは、「音遊びや即興的に表現する」活動と、「音を音楽へと構成する」活動からなる。従来の音楽づくりの指導でも、表現を工夫させて音楽づくりをさせてきた（ほしぞらの音楽をつくらうなど）。しかし、特に低学年の子どもは、楽器を演奏することに夢中になり、「こう鳴らしたら楽しい」という「即興的に表現する」活動で満足してしまい、どのように「音を音楽へと構成する」かという表現の工夫までには至らなかった。

このことの原因は二つある。一つ目は、『音楽の仕組み』を用いた音楽づくりの指導が不十分な点である。即興的に表現した音と音とを関連付けて、まとまりのある音楽へと構成していく役割の「音楽の仕組み」やその働きを、子どもは十分に生かしていないのである。

原因の二つ目は、音楽の全体的な見通しをもたせられていないという点である。部分（即興的な表現等）と部分とが関連付けていくような流れやストーリーを子どもはもっていないのである。

私は、目指す姿を具現するために、次の二点の改善策を講じ、学習を改善する。

一点目は、グループで体を動かす活動を取り入れさせることである。子どもは、友達と動きを合わせて音の一体感を味わいながら、動きで「音楽の仕組み」を意識して音楽を構成し、表現を工夫することができる。

二点目は、生活科の具体的な活動や体験を通して得た気付きと関連させていくことである。子どもは、生活科の学習活動で気付いた様子の変化、体験したこと、心に残った思い出などをイメージとし、そのイメージに合わせて音楽をつくり、表現することができる。

このように音楽づくりの学習を展開することを通して、目指す姿を具現する。

*1…音楽を形づくっている要素は、音色、リズム、速度などの「音楽を特徴付けている要素」と、反復、呼びかけとこたえなどの「音楽の仕組み」に分けられる。「音楽を特徴付けている要素」と「音楽の仕組み」とのかかわり合いによって、音楽は形づくられている（小学校学習指導要領解説音楽編）。

2 本研究で育成する資質・能力、そのために子どもが働かせる「見方・考え方」

「見方・考え方」		
○音や音楽について、要素とその働きに着目し、とらえたことと自己のイメージとを関連付けて考えるという「見方・考え方」（以下：「音楽的な見方・考え方」）		
①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③態度
○音楽を形づくっている要素について、音楽における働きとのかかわりに関する知識 ○音楽づくりに関する技能	○音遊びを通して、音楽づくりの発想を得る力 ○どのように音を音楽にしているかについて考える力	○楽しく音楽にかかわり、協働して音楽活動しようとする態度 ○身の回りの様々な音楽に親しもうとする態度

3 主張する働き掛け

本題材の前に、音楽科との関連を考えた生活科の単元（やさいをそだてよう、日本海へこぎだそう等）を学習させ、関連のある資質・能力を自覚させておく。

本題材では、まず、音楽をつくりたいと思うような文脈（野菜の気持ち～レッツ・ボディパーカッション～等）と条件（音楽表現を想起しやすい条件）とを設定する。子どもは、音楽をつくらしてみたいと考え、体を動かす活動を取り入れながらグループで音楽をつくる。この段階において、子どもの作品は、即興的な短い音の表現にとどまっている（C0）。

働き掛け1

音楽のモデルAと音楽のモデルBを提示し、感じたことを問う。

音楽のモデルを比較聴取させ、要素とその働きによって、感じるイメージが違うことに気付かせるための働き掛けである。

音楽づくりに興味をもち、即興的に音楽表現している子どもに、音楽のモデルを2曲提示する。モデルAは音楽の仕組み（反復、変化等）を使っていない演奏、モデルBは意図的に音楽の仕組みを使った演奏である。子どもは、モデルBの要素に着目する。

2曲を聴いて感じたことを問う。子どもは、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、「どちらも

同じリズムがあったけれど、モデルBは繰り返していた。Aとは違うイメージを感じた」などと答え、感じるイメージが違うことに気付く。発言を板書し、モデルBの表現の工夫やそのよさを可視化する。子どもは、「要素の働きを生かした表現を工夫して音楽をつくろう」と問いをもつ。

働き掛け2

条件を整理してから、音楽づくりの時間を設定する。

表現の工夫の見通しをもたせ、音楽づくりをさせるための働き掛けである。

板書した表現の工夫やそのよさから、学習の条件を整理し共有する。子どもは、「反復でだんだん増えていく表現をしよう」などと、「**音楽的な見方・考え方**」を働かせて表現の仕方を考える。

その後、音楽づくりの時間を設定する。子どもは、イメージ（場面や様子の変化等）とその表現の仕方について考え（**生活科①知識・技能**、**②思考力・判断力・表現力**）、音楽の仕組みを使った表現を相談したり試したりする（**協働性**）。そして、どのように音を音楽にしていくかについて考える力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して、伝えたいと思っているイメージに合った音楽をつくり、表現していく。また、撮影した動画で表現の出来具合を確認する（**ツール活用能力**）。

働き掛け3

クイズ形式の中間発表会を設定し、気付いたことを問い、音楽づくりの時間を設定する。

自分の作品と友達作品とを比較聴取させ、作品をよりよく表現するための新たな工夫の視点をもって音楽づくりさせるための働き掛けである。

ある程度表現を工夫して作品に満足している子どもに、中間発表会を提案する。発表はクイズ形式とする。発表する子どもに自分の作品をとらえさせるため、また、聴く子どもに表現の工夫を発見させるためである。

中間発表会では、発表する子どもは、グループの音楽表現を発表する（**音楽科①知識・技能**）。聴く子どもは、自分の作品と友達作品とを比較聴取し、工夫のよさや新たな工夫の視点に気付く。中間発表を聴いて気付いたことを問う。子どもは、友達の工夫のよさや新たな工夫の視点を出し合い、それらを生かしてさらに音楽づくりをしたいと考える（**音楽科・生活科①**、**音楽科③態度**）。

再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは、自分の作品について、さらに表現の工夫を考え、どのように音を音楽にしていくかについて考える力を発揮して、自分のイメージに合う表現を試したり工夫したりしながら音楽づくりをする（**音楽科・生活科②思考力・判断力・表現力**）。友達とアドバイスし合ったり（**協働性**）、動画で表現の出来具合を確認したりする（**ツール活用能力**）。

働き掛け4

完成発表会を設定する。

音楽づくりの知識・技能を発揮させるための働き掛けである。

グループの作品の完成発表会を設定する。子どもは、音楽づくりに関する技能（**音楽科①知識・技能**）を発揮して、音楽作品を発表する。これまでの一連の学習を通して、**要素の働きを生かした表現を工夫し、イメージに合った音楽をつくる子ども（Cn）**になる。

働き掛け5

音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

完成発表会を終えた子どもに、振り返りシートを配付する。子どもは、振り返りシートに音楽作品の特徴を記述し（**音楽科①知識・技能**、**②思考力・判断力・表現力**、**生活科①知識・技能**、**③態度**）、音楽づくりで発揮した資質・能力と、その結果どのような作品をつくることのできたのかを自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ④ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け1と2と3と4を受けて、イメージに合った音楽をつくることのできたかどうかを、発言や記録動画や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け1と2を受けて、想定した「見方・考え方」を働かせているかどうかを、発言や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け2と3と4を受けて、想定した資質・能力が発揮されたかどうかを、発言や記録動画や学習シート、振り返りシートの記述から検証する。
- ④ 働き掛け5を受けて、想定した資質・能力を自覚することができたかどうかを、発言や振り返りシートの記述から検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (6月) 「野菜の気持ち～レッツ・ボディパーカッション～」 (19時間)
- (2) 附属オータム研修会 (9月) 「いろいろな音を楽しもう～楽器でおはなし「楽しかった日本海」～」 (16時間)
- (3) 初等教育研究会 (2月) 「思い出いっぱい 音いっぱい～様子を思いうかべよう～」 (10時間)

